

<p>【イベント名】 第6回 ラテンアメリカテレカンファレンス</p>	<p>【概要】 最初にコスタ・リカ大学より発表されたquality indicatorsを用いた安全管理はまさにアメリカが先進的に取り組んでいる内容で、日本では取り上げられない内容で参考になった。スクリーニングにおける前処置薬、治療後サーベイランスなどは世界的にも統一された見解は存在しないため、議論が盛り上がった。ラテンアメリカ大陸の歴史的背景よりアメリカもしくはヨーロッパ大陸いずれの国から影響を受けているかの違いがプレゼンテーションに表れており興味深かった。終始、胃癌への高い関心が示されたディスカッションであり、ラテンアメリカとの国際交流の重要性を改めて感じた。</p>
<p>【期日】 2015.08.06</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), アレマナ病院 (チリ), サンパウロ大学 ヒベロンプレト病院 (ブラジル), ブラジル癌研究所 (ブラジル), Rede Universitaria de Telemedicina (ブラジル), バレトス がん病院 (ブラジル), ゴンザレス総合病院 (メキシコ), シャープマサトラン病院 (メキシコ), セドナ病院 (メキシコ), メキシコ癌研究所 (メキシコ), コスタ・リカ大学 (コスタリカ), カリ・ザビエル大学 (コロンビア), ポリビア・日本消化器センター (ポリビア)</p>	
	
<p>九州大学病院での会場の様子。</p>	<p>モニタに映し出される9地点の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>コスタ・リカ大学から提示されたスライド。</p>	<p>提示された内視鏡画像。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>ストリーミング受信で参加したカトマンズモデル病院。</p>	<p>セッション開始前に広島市の被爆者へ黙祷が捧げられた。</p>
<p>撮影場所：カトマンズモデル病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>